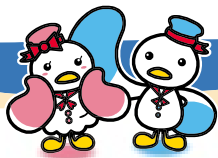


伝言板

No.13(H21.12)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

第6回「みなと座談会（留萌）」の開催……………	1	第5回釧路港舟漕ぎ大会……………	10
みなとサポート事業～各支部の支援活動……………	3	ミニパネル展の開催……………	11
平成21年度 助成事業の実施概要について……………	6		

第6回「みなと座談会（留萌）」の開催

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構が行う「みなと座談会」は、これまで「ザ・シンポジウムみなと」（主催：実行委員会）に協賛し、全道のみなとまちづくり女性ネットワークの協力の下に開催されてきました。平成16年度第1回を函館で開催して以来、釧路、室蘭、稚内、広尾と続き、今年で第6回目を迎えます。

「みなと座談会」の開催場所等は、第1回函館から第4回稚内開催まで「ザ・シンポジウムみなと」に合わせ実施してきましたが、昨年度「ザ・シンポジウムみなと」の開催地は帯広でしたが「みなと座談会」は港の所在地広尾で開催しました。今年度の「ザ・シンポジウム」は11月10日函館での開催が決定され、開港150周年に関わる諸行事が行われることから、諸般の事情を勘案して未開催地の中から留萌での開催となりました。

●日時 平成21年11月18日（水）15：10～17：00

●場所 留萌市大町2丁目

「海のふるさと館」2階会議室

パネラーにつきましては、次の3点を考慮し選定させて頂きました。

① 地元で活躍されている女性ネットワーク会員

1 議題の選定

留萌に見合った特別な議題並びにパネラーの選定について、地元関係者と検討しましたが適当な議題の選定に至らず、パネラーにつきましてもみなとまちづくり女性ネットワークの皆さんの協力が不可欠と判断され、昨年同様、全道各地で活躍される方々の活動報告と地域のみなとまちづくりの課題等について話し合うこととし、「女性の視点によるみなとまちづくり」としました。



- ② 当 NPO が行う平成 21 年度助成事業の内主
催代表が女性ネットワーク会員
- ③ 学識経験者で女性ネットワーク会員

事務局 事務局長
事務局次長
同
同

吉原 吉蔵
春貴 功
谷内 清治
千葉 仁

2 座談会参加者

▶ 司会者

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 理事長 中村 信之

▶ パネラー

留萌市 NPO 法人女性懇話会ウイシュ 事務局長 菅原千鶴子
函館市「みなとと魚の学習会」 代表 折谷久美子
苫小牧市「みなとを核にしたみなとの空間はないっばい活動」 代表 大西 育子
稚内市「WAKKANAI みなとコンサート」 代表 高橋由貴子
函館市 北海道大学特任准教授 古屋 温美

▶ オブザーバー

室蘭市 ユネスコ協会会長 立野 了子
紋別市 女性ネットワークオホーツク代表 竹内 珠己
留萌市 NPO 法人女性懇話会ウイシュ会員 村山ゆかり
増毛町 国稀酒造企画室長 本間 櫻
北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 企画官 遠藤 仁彦
北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 企画係長 山下 香
北海道開発局 留萌開発建設部 築港課長 高木 哲夫
北海道開発局 留萌開発建設部 築港課 港湾計画官 先川 光弘
北海道開発局 留萌開発建設部 留萌港湾事務所 第 1 工事課長 鈴木 一行
留萌市 産業建設部長 中西 俊司
留萌市 産業建設部 経済港湾課 港湾振興係長 加藤 宏樹
留萌市 日刊留萌新聞 報道課長 飯沢 信

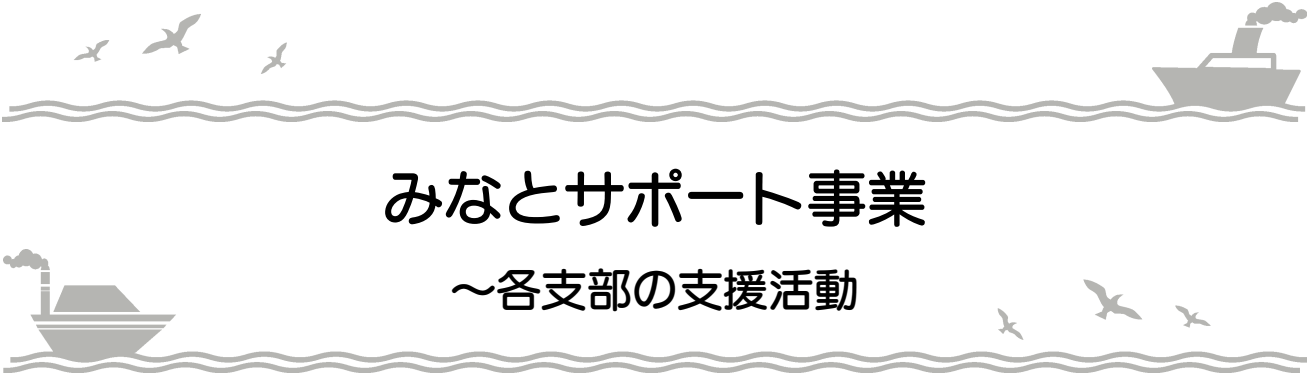
3 座談会の概要

「みなと座談会」は事務局による出席者の紹介、理事長挨拶、議題等選定の経過報告に始まり本題に入りました。パネラーの皆様から順に各自の事業の目的、概要等の説明を受け、それをもとに事業取り組みに当たり苦労されたこと、ならびに事業の評価等について活発に意見交換がされました。時間的に余裕があり、女性のオブザーバーの方々にもそれぞれの地域における活動状況等の報告を受けると共に、公共事業（港湾・道路等）の素人、子供にも理解できるパンフレット等の作成が必要ではないかとの貴重な提言も頂きました。最後にオブザーバー全員に本座談会を聞いての感想、提言を頂き終了しました。

今回の座談会で特に感じたことは、地域活動の継続の重要性、若い世代にいかにして引き継いでいくか、円滑な世代交代の重要性を感じました。

最後になりましたが、多忙な中、座談会に出席いただいたパネラー、オブザーバーの皆様、並びに開催に多大なご配慮を頂いた地元の菅原様、留萌市産業建設部、留萌開発建設部の皆様に厚く御礼申し上げます。





みなとサポート事業

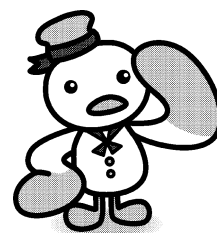
～各支部の支援活動

この業務は、開発建設部が開催（または協力）する「みなと見学会」、「みなとパネル展」、「アンケート調査」などの実施について、NPO 側に支援要望のあったものから支援可能なものを選択し、NPO 会員の“みなとサポーター”（注1）が支援するものです。

なお、この支援事業は平成 20 年度から始められ、今年は 2 年目となります。

（注1）“みなと関係の催しもの”を支援するため、当 NPO 法人会員があらかじめ登録し派遣される者をいう。

開発建設部（企画・運営は築港課と港湾事務所）が、一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図ることを目的に開催する行事について、NPO 事務局と担当する各支部が連携をとりながら支援活動を行いました。今年度は、これまでに延べ 14 日、19 名のサポーターが支援しましたので、その概要をご紹介します。



● 小樽支部

① 石狩湾新港みなと見学会（6月24日、6月26日）

小学生（4年生約170名）を対象に、港湾業務艇「ひまわり（総トン数19トン）」に乗船し約40分程度で港内を巡りながら港の様子を見学。

サポーター（2名/日×2日）は救命胴衣の着脱、安全警備などを支援。

② 岩内港みなと見学会（7月1日～2日）

小学生（3～4年生約140名）を対象に港湾業務艇「ひまわり」に乗船、港湾の役割などについて見学。

サポーター（2名/日×2日）は救命胴衣着脱、安全警備などを支援。

③ 小樽港みなと見学会（10月4日）

小樽色内公園を中心に開催される「小樽港開港110周年記念行事」の関連事業の一環として共催する「小樽港みなと見学会」が開催されました。

一般市民（先着約100名）を対象に港湾業務艇「ひまわり」に乗船、船内放送による案内で約30分かけて港内を巡りながら「おたるみなと資料館」見学を含む港の様子を見学。

サポーター（2名）は見学者の安全警備、アンケート調査を支援。



石狩湾新港での様子

● 函館支部

① 函館港港見学会（7月28日、30日、8月4日、6日）

一般市民（先着約115名）を対象に港湾業務艇「みずなぎ（総トン数19トン）」に乗船してもらい港内を見学。サポーター（1名）は見学者の誘導及び警護を支援。

● 苫小牧支部

① 室蘭港海の日記念イベント（7月20日）

一般市民（先着約80名）を対象に港湾業務艇「みさご（総トン数19トン）」に乗船、港湾の役割などについて見学。

サポーター（2名）は、見学者の受付や案内等を支援。

道の駅「みたら」の2階において、パネル展が開催され、サポーター（2名）は訪れた市民約560名に記念グッズの配付を支援しました。

② 浦河港みなとパネル展（8月15日）

開催に当たり、パネルの設置・撤去並びに説明をサポーター（1名）が支援。

見学者は約80名。

● 釧路支部

① 紋別港みなと見学会（7月8日、7月9日）

市内及び周辺の小学生（先着約250名）を対象にガリンコ号に乗船、第3防波堤、オホーツクタワー見学、港湾の役割などについて見学。

サポーター（1名）は、見学者の誘導やみなとの役割等の説明を支援。



岩内港での様子



○ 平成 21 年度 助成事業の実施概要について ○

当法人は、会員が主体となつて行う“道内のみなどの活性化につながるイベント”等の事業に対して助成を行っているもので、平成 20 年度から始められた事業です。

事業採択をするための評価審査委員会が設置され、委員には学識経験者 2 名、当法人から理事長と理事計 4 名が各団体から提出された申請活動に関する応募資料について審査を行いました。

審査の選考基準は、事業の目的が「みなとまちの活性化への効果が期待できる事業」であること。並

びに地域住民との連携と広がりについて、過去の開催実績等も合わせて審査を行いました。

審査委員会の結果、申請のあった 16 件のうち、活動内容とも、みなとまちの活性化への効果が十分に期待できること、ならびに、過去の実績が十分に評価できるものとして、9 件を採択しました。採択結果は 5 月 15 日に該当のあった団体に通知しました。

採択した事業や団体名並びに開催日は以下の通りです。

活 動 名	団 体 名	開催月日
第 2 回「ポート天国」市民舟遊び	小樽築港ベイエリア活用推進実行委員会	7 月 18、19、20 日
第 7 回「WAKKANAI みなとコンサート」	稚内のみなとを考える 女性ネットワーク	8 月 23 日
みなと南極まつり 副港ボートレース 2009	稚内地元愛育成協議会	8 月 2 日
漁業体験学習会（第 4 回水産教室）	東しゃこたん漁業協同組合 積丹支所青年部	平成 22 年 1 月 開催予定
古平漁港青空市場	古平漁港青空市場実行委員会	年 3 回開催 6 月 28 日
函館港開港 150 年 「コンプワークショップ」	みなとまちづくり 女性ネットワーク函館	10 月 25 日
寿都ホッケフェスタ	寿都町観光協会	9 月 27 日
港を核としたみなとの空間 はないっばい活動事業	女性みなと街づくり苦小牧	6 月 18 日～ 9 月 30 日
函館港開港 150 年 「函館ペリー来港回顧ボート競争」	函館ペリー来港回顧ボート 競争実行委員会	8 月 9 日

助成金額は 50 千円、100 千円、150 千円の区分で配賦しました。

採択された事業の内から、当法人の担当者が現地に赴き肌で感じた様子などについて、その概要を報告するものです。



「副港ボートレース 2009」

平成 21 年 8 月 2 日

稚内地元愛育成協議会主催による「副港ボートレース」が昨年に続き、稚内港第 1 副港において行われました。今年は 2 回目で初出場を含む 16 チームが参加し、午前 9 時の開会式に引き続き優勝賞金 10

万円を目指してレースが始まりました。

競技はボートに 1 チーム 10 名が乗り込み、3 チーム同時に約 150 m のコースを往復しタイムを競うもので、予選は 3 チームずつで競い上位 6 チームが準決勝に、また、予選で敗れたチームの中から敗者復活戦で勝ち上がった 3 チームの計 9 チームが準決勝に進出。決勝は、準決勝のタイム順で勝ち上がっ

た3チームが競いました。

決勝では、初出場のチームが昨年の優勝チームに競り勝ち見事優勝賞金を手に入れました。

レースは、風、波ともに穏やかなコンディションで行われましたが、あいにくの曇り空で観客にとっては肌寒い日となりました。しかし、白熱したレースに観客の声援にも力が入り選手ともども熱い一日でした。

また、副港市場前の特設会場では、出店や土木の日イベントが開催され建設機械等も展示され、大勢の市民でにぎわいました。



第7回 WAKKANAI みなとコンサート

平成 21 年 8 月 23 日

稚内港の北防波堤ドーム内特設ステージにおいて、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が主催する「稚内みなとコンサート」が開催されました。

今年で7回目を迎え、コンサートは市内の学生・一般による約300人が参加。合唱、ソウル、ハードロックなど様々な音楽演奏や、フォークダンス、よさこいソーラン踊りなど16団体が日頃の練習成果を披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

また、会場内には露店等の出店コーナーも設け1,000人ほどの市民が訪れ、最北の短い夏のひとときを楽しみました。



大勢の人々で賑わった「古平漁港青空市場」

6月28日(日)、晴天のもと古平漁港内「東しゃこたん漁協生産部前」の会場ではオープン前の9時から大勢の買い物客で賑わった。

この青空市場は、古平町の活性化並びに基幹産業である水産業の振興を図ろうと「古平漁港青空市場実行委員会」を立ち上げ、平成14年から始められ今年は8年目(通算23回目)の開催となりました。

このイベントのきっかけは、平成3年にさかのぼり、町の若者たちが町の活性化に自分たちが出来ることはないかと、お盆に合わせて「生き生きふるさとまつり」を企画し開催したのが始まりとされている。

平成21年度は6月、7月、8月に各1回ずつ3回の開催予定となっています。

青空市場に出店したのは、「異業種交流グループふるびら 21」をはじめ、東しゃこたん漁業協同組合、水産会社、食堂、地元商店、農園など 8 店舗です。このほか漁組の直売所は通常営業となりました。

古平グルメの色々は、鮮魚・貝類、塩水うにパック、干し魚、焼きアワビ、たこの串焼き、つぶ焼き、すり身、浜鍋、海産物加工品、イカ飯などのご飯もの、こんぶ巻き、若鶏のから揚げ、いちご、トマト等の農産物、飲み物のほかカキ氷など多彩。

当日の開催時間は 10 時から 14 時迄となりましたが、早々と訪れて頂いた方々の要望に応え一部の店では 9 時ころから販売開始となった。イベント情報によれば、例年“売り切れ次第終了”となっている。実行委員会の話では、当日は天候にも恵まれ 3,800 人を超える買い物客があり 13 時 30 分頃には、ほとんどの店で完売状態となった。

(注) このイベントについては、当法人の助成事業として全道から応募があったものの中から、「助成事業に係わる評価審査委員会」において厳正な審査の結果採択されたもの



で、主催者に対して助成金 5 万円が贈られています。

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構 札幌支部

好天に恵まれおおいに賑わった

大漁豊漁 寿都ほっけ祭り

9 月 27 日 (日) 秋晴れのもと寿都町の道の駅「みなとま〜れ寿都」海側駐車場では午前 10 時 30 分の開始から大勢の観光客や親子連れで賑わった。

この祭りは今年から始まったもので、きっかけとなったのは今から 8 年前の 6 月に開催された「おさかな市」とされている。

主催は寿都観光協会、後援は寿都町、寿都商工会、寿都漁業協同組合、寿都水産加工業協同組合となっている。

【ほっけアトラクション】

開催のトップを飾った「ほっけアトラクション」はつぎのとおり

「ほっけの重さあて」 整理券をもらった 50 人が参加し 5 人ずつのグループに分け、抽選で任意に入っている (6 kg から 1 kg) 発砲スチロール箱に入っているほっけの重量を当てるもので、当てれば 1 人だけ受け取る事が出来る。箱の中身を見て喜びの声を上げる人たちに近くからも歓声が上がった。

「ほっけの袋詰め放題」 水揚げしたばかりのほっけ約 500 kg が用意され、整理券をもらった 10 人ずつのグループに分け、ほっけを入れるビニール袋と手袋を受け取り、合図と共に 30 秒間で大きな箱から自由に詰め込むもので、袋の容量と時間の関係で参加者は真剣な様子であった。観客から声援が飛びにぎやかであった。(写真 1)

(注)「ほっけレース」は、生きたほっけが漁獲の都合で中止。

【寿都グルメのいろいろ】

「地元漁師の産直市場」 新鮮な魚介類の特売で数量限定の、ほっけ、鮭、エビ、青つぶなど盛り



(写真1)「ほっけ詰め放題」を待つ参加者の行列

沢山。

「寿都町特産品の大特価」 寿都町名産のほっけの開き、ほっけの薫製、糠ほっけ、魚醬干しほっけ、生炊きしらす佃煮、いか一夜干し、魚醬かれい、真いか一夜干し等。

「ほっけ料理&焼き鳥&ビール」 寿都産ほっけを使った限定200食で、訪れた客はほっけ料理に舌鼓を打った。(写真2、3)

ほっけのチャンチャン焼き、ほっけのすり身かまぼこ、ほっけフライ、ほっけすり身汁、焼きホタテ、おにぎり、焼き鳥、ビール等

このほか、「ほっけを使った特別メニュー」は、“道の駅”から提供されました。

実行委員会の話では、天候にも恵まれ入り込数は800人を超え、12時20分には予め用意された限定数量分は全て完売状態となり早々と店終いとなった。

このあと、ほっけが当たる「ビンゴ大会」が行われ、会場はおおいに盛り上がりを見せ終了となった。



(写真2)「ほっけのチャンチャン焼き」風景



(写真3) チャンチャン焼きをほおばる親子連れ

このイベントについては、当法人の助成事業として全道から応募されたもののなかから、「助成事業に係わる評価審査委員会」において厳正な審査の結果採択されたもので、主催者に対して助成金5万円が贈られています。

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構
札幌支部

函館港開港 150 年 「函館ペリー来港回顧ボート競争」

[写真のみ紹介]



第5回釧路港舟漕ぎ大会

SCOPE北海道支部 事業第一部長 柳田 秀吉

釧路川ホテルラビスタ前岸壁で「第5回釧路港舟漕ぎ大会」が8月7日（金）の前夜祭に引き続き、競技大会が8月8日（土）9時より開催され、当NPO法人の中村理事長が舟漕ぎ大会副会長として出席しました。

競技大会は、釧路としては例年になく晴天の暖かい中9時より開会式、10時からレースが開始され、種目は一般の部55チーム、女性の部15チームが出場しました。

競技方法は、1チーム漕ぎ手6名、声掛け1名、旗持ち1名の8名が、長さ8.0m、幅1.5m、舵なしの船に乗り込み、幣舞橋上流に設けた往復200mのコースでタイムを競うものです。1レース5隻で予選を行うが、船は風、川の流れ、舵が無いため漕ぎ手の息が合わないと大きく蛇行し、時間をロスする船もあった。コース通りに船を早く進めるには、チームワークはもとより、折り返し地点をUターンする操船技術、流速が早い中央部より川岸寄りの遅くなるコース選択、後は常日頃の練習成果が必要と感じました。

今年は、昨年の競技終了後「記念すべき第5回大会となることから賞金をバージョンアップ」することを宣言し、約束通り一般の部が20万円から30万円、女性の部が10万円から15万円に引き上げ実行



された。例年通り敗者復活戦を設け、各予選タイムの勝者が繰り上がり、準決勝、決勝戦を行った。

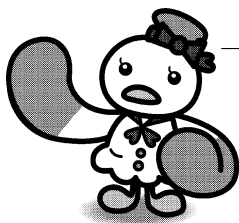
競技終了後、表彰式に入り優勝、1位から5位までが入賞し、表彰状と副賞（一般の部30万円、女性の部15万円）が授与されました。また、優勝チーム当てクイズ（一般の部1チームと女性の部1チームを当てる連勝単式方式）と合わせて、写真コンテストなどの賞品を贈呈されました。

閉会に当たり、大会実行委員会から怪我、事故もなく安全を保ちながら盛況のうち終わることが出来、来年も更なる発展を期待したいとのメッセージで終了しました。

このイベントは、実行委員会の綿密な計画と各関係機関の協力及び多くのボランティア参加により運営・実行されました。

実行委員会の関係者からお話をお聞きしたところ、今後この様な釧路地区或いは全道各地区で優勝したチームを集め、例えば、道央地区の「小樽港」「石狩湾新港」などで全道一のチャンピオンを競いたいとのことで、他に先駆けデモンストレーションとして8月9日（日）函館港を舞台に開催するとのことでした。





ミニパネル展の開催

当法人は、平成 21 年 11 月 10 日（火）「ザ・シンポジウムみなと in 函館」の開催に協賛しミニパネル展を開催しました。

開催場所は、シンポジウム会場と同じ「函館国際ホテル」2 階の会場出入り口付近のスペースとし、シンポジウム開始 30 分前の 13 時から 15 時過ぎまでの時間帯を利用して行ないました。

パネル展の内容は、シンポジウムのテーマ「故き^{ふる}を温^たねてみなとまち函館の未来を考える」に合わせ次の通りです。

●その一

「みなとまち函館 150 年ストーリー写真パネル」

～開港からの歩み～（A 1 サイズ 4 枚組）

「函館港全景航空写真パネル」（たて 1.2 m よこ 2.0 m 1 枚）

* 函館港湾事務所保有のパネル

●その二

「ペリー艦隊日本遠征記（1856 年）」より（A 1 サイズ 9 枚）

* 「函館ペリー来港回顧ボート競争委員会」保有のパネル

注）このパネルは上記の委員会が 8 月 8 日と 8 月 9 日に実施されたボート競争に合わせて、函館中央図書館所蔵の資料を展示パネルとして複製制作したもので、歴史を記録したものとして珍しい内容のものです。





●その三

「北海道のみなと（港湾）」

「北海道の貿易をささえる“みなと”」

「北海道と本州をむすぶ“みなと”」

「フェリーと RORO 船」

「世界とつながる北の扉」

「人々の交流拠点“みなとまち”づくり」

＊北海道開発局港湾空港部保有のパネル（A1
サイズ6枚）

シンポジウムに参加された多くの方々は、開港当時の古い絵に描かれている艦船や風俗、ペリー提督の肖像を描いたものなどについて興味を持たれしばし足を止め見入っていました。

また、函館港の最近の航空写真も注目を集め、港の様子や昔の思い出などについて談話している参加者も多く見受けられました。

なお、シンポジウムの参加者は290名超となりました。

今回、ミニパネル展の開催に当たり、前述の通り「函館港湾事務所」「函館ペリー来港回顧ボート競争委員会」「開発局港湾空港部」様からのご理解とご協力により展示パネルを借用しました。また、パネル展開催の諸準備等について当法人の函館支部や会員の皆様からも協力を頂きました、厚くお礼を申し上げます。

